

(添付書類)

**実務経験のある教員等による
授業科目の授業計画(シラバス)**

看護学科 合計 1,710 時間

・実務経験のある教員等による授業時間数の合計

看護学科 合計 1,710時間

看護1年

分野	専門分野 I		科目番号	SP01	単位数	1単位
科目名	基礎看護学概論		授業形態	講義・演習	時間数	30時間
			開講時期	1年生 前期	曜日・時限	不定期
担当教員	黒田 祥子(看護師)	実務経験	黒田:39年2月			
分野	専門分野 I		科目番号		単位数	3単位
科目名	基礎看護学方法論 I		授業形態	講義・演習	時間数	90時間
			開講時期	1年次前期	曜日・時限	不定期
担当教員	安徳秀子、田中雅美、 渡辺洋子(看護師)	実務経験	田中:25年1月/渡辺:32年1月/安徳:27年9月			
分野	専門分野 I		科目番号		単位数	2単位
科目名	基礎看護学方法論 II		授業形態	講義・演習	時間数	60時間
			開講時期	1年次・後期	曜日・時限	不定期
担当教員	安徳秀子、渡辺洋子、藤浦和久 (看護師)	実務経験	安徳:27年9月/渡辺:32年1月/藤浦:26年			
分野	専門分野 I		科目番号		単位数	1単位
科目名	基礎看護学方法論 III		授業形態	講義	時間数	30時間
			開講時期	1年次・後期	曜日・時限	不定期
担当教員	田中雅美(看護師)	実務経験	田中:25年1月			
分野	専門分野 I		科目番号		単位数	1単位
科目名	基礎看護学方法論IV(ヘルスアセスメント)		授業形態	講義・演習	時間数	30時間
			開講時期	1年後期	曜日・時限	不定期
担当教員	安徳秀子(看護師)	実務経験	安徳:27年9月			
分野	専門分野 I		科目番号		単位数	1単位
科目名	基礎看護学実習 I		授業形態	講義・演習	時間数	45時間
			開講時期	1年次	曜日・時限	9月・12月
担当教員	実習指導:全専任教員 実習指導教員 科目責任:	実務経験				
分野	専門分野 II		科目番号	SX01	単位数	1単位
科目名	成人看護学概論		授業形態	講義・演習	時間数	30時間
			開講時期	1年生 後期	曜日・時限	不定期
担当教員	藤浦 和久(看護師)	実務経験	藤浦:26年			
分野	専門分野 II		科目番号		単位数	1単位
科目名	老年看護学概論		授業形態	講義	時間数	30時間
			開講時期	1年後期	曜日・時限	不定期
担当教員	前島 文子(看護師)	実務経験	前島:31年1月			

分野	専門分野 I		科目番号	SP01	単位数	1
科目名	基礎看護学概論		授業形態	講義・演習	時間数	30
			開講時期	1年生 前期	曜日・時限	不定期
担当教員	黒田 祥子	実務経験	黒田:39年			
授業の目的	基礎看護学は、あらゆる看護学の基盤となるものである。その基盤について、「基礎看護学概論」では看護の基本となる概念を学ぶ。					
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の目的と看護を構成する要素を学び、看護の基本概念を理解できる。 2. 人間に対する見方、考え方を学び、看護の対象である人間の多様性を理解できる。 3. 健康の概念を明らかにし、健康の社会的意義が理解できる。 4. 看護の提供者として看護活動の概要を知り、専門職としての役割を理解できる。 5. 医療・看護における倫理について、その歴史的経緯や倫理的問題を学ぶ。 6. 看護の提供のしくみを知り、看護サービスの実際を学ぶ。 7. 広がる看護の活動領域について理解できる。 					
授業の内容と方法	回	授業内容		授業方法	学習課題	担当
	1	導入 「基礎看護学」の概要・「基礎看護学概論」の教育内容について		講義 課題学習 グループワーク	授業内容に関連する図書・文献の精読と要約	黒田
	2	1. 看護とは				
	3	1) 看護の本質 2) 看護の役割と機能 3) 看護の継続性と情報共有				
	4	2. 看護の対象の理解				
	5	1) 人間の「こころ」と「からだ」 2) 生涯発達しつづける存在 3) 人間の「暮らし」の理解				
	6	3 国民の健康・生活の全体像の把握				
	7	1) なぜ国民の健康・生活の全体像の把握が必要か				
	8	2) 健康のとらえ方 3) 国民の健康の全体像 4) 国民のライフサイクルと健康・生活 5) 現代の日本人の健康と生活を考える				
	9	4. 看護の提供者				
	10	1) 職業としての看護 2) 看護職の資格と養成に関わる制度 3) 看護職者の就業状況と継続教育 4) 看護職の養成制度の課題				
	11	5. 看護における倫理				
	12	1) 現代社会と倫理 2) 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 3) 看護実践における倫理問題への取り組み				
	13	6. 看護の提供のしくみ				
	14	1) サービスとしての看護 2) 看護サービスの提供の場 3) 看護をめぐる制度と政策 4) 看護サービスの管理 5) 医療安全と医療の質保証				
	15	7. 広がる看護の活動領域				
	1) 国際化と看護 2) 災害時における看護					
	【レポート・課題学習】 講義の進行状況で随時提示を行う。 1. 社会情勢の中で関心のある情報について 2. 最も興味がある看護理論について 3. 「基礎看護学概論」の学習で、最も関心ある内容について					
評価方法	筆記試験(80%)、レポート・課題学習(20%) 配点は、学習状況により変更する場合がある。					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1] 看護学概論 医学書院					
参考図書・参考文献など	実践に生かす看護理論19:サイオ出版社、ナイチンゲールの看護覚え書:西東社、看護の基本となるもの:日本看護協会、よくわかる看護者の倫理綱領:照林社、国民衛生の動向(2016/2017)厚生労働統計協会 など					
備考	授業日程・授業方法は、授業進度状況により変更する場合がある。					

分野	専門分野 I	科目番号		単位数	3単位
科目名	基礎看護学方法論 I	授業形態	講義・演習	時間数	90時間
		開講時期	1年次前期	曜日・時限	不定期
担当教員	安徳秀子、田中雅美、渡辺洋子 他 (看護師)	実務経験	前島:31年1月、安徳:27年9月、田中:25年1月、渡辺:32年1月		
授業の目的 授業の目標	<p>目的 1. 看護実践における技術の意味を理解し、看護活動の基礎となる共通基本技術を習得する。 2. 日常生活における対象のニーズを把握し、対象に必要な日常生活の援助技術を習得する。</p> <p>目標: 1. 看護技術の概念を理解できる。 2. 対象の欲求を的確に把握する能力を修得する。 3. 看護活動を安全に安楽に効率よく行うことの重要性が理解できる。 4. 情報収集の視点であるスクリーニングを理解し、実施できる。 5. 医療事故防止の重要性が理解できる。 6. 患者の安全・安楽・自立を考慮した日常生活の援助技術が実施できる。 7. 対象に応じた基本的欲求を満たすための援助技術を根拠に基づき実施できる。</p>				
	回	授 業 内 容	授業方法	学習課題等	担当
I-1	1	看護技術の定義・医療技術の基盤・看護技術の特徴	講義		前島
	2	コミュニケーションの意義と目的・方法	講義・演習		前島
	3	コミュニケーションの実際	講義・演習		前島
	4	プロセスレコード	講義・演習	プロセスレコード	田中
	5	看護実践における記録の重要性	講義		田中
	6	対象理解のための観察記録	講義・演習		田中
	7	看護記録の実際	講義・演習	観察記録	田中
	8	バイタルサインの観察とアセスメント	講義・演習	※この学習は基礎IVとリンクしている	田中
	9	バイタルサインの観察とアセスメント	講義・演習		田中
	10	*バイタルサイン観察の実際	演習		田中
	11	自然排尿と自然排便の基礎知識とアセスメント	講義		渡辺
	12	自然排尿と自然排便の援助	講義		渡辺
	13	*自然排尿と自然排便の援助の実際	演習		渡辺
	14	排便を促す援助(浣腸)	講義・演習		渡辺
	15	おむつ交換の援助と陰部洗浄	講義・演習		渡辺
	16	おむつ交換の援助と陰部洗浄	演習		渡辺
I-2	17	基本的活動の基礎知識	講義		安徳
	18	体位と体位変換	講義		安徳
	19	*体位変換の実際	演習		安徳
	20	移乗と移送	講義		安徳
	21	*移乗と移送の実際	演習		安徳
	22	睡眠と覚醒の援助の基礎知識	講義		安徳
	23	睡眠・休息の援助	講義・演習		安徳
	24	療養生活の環境, 病室の環境のアセスメントと調整	講義		安徳
	25	ベッド周囲の環境整備	講義		安徳
	26	*ベッドメイキングの技術	講義		安徳
	27	ベッドメイキング	演習		安徳
	28	2人で行う臥床患者のリネン交換と環境整備の実際	演習		安徳
	29	食事援助の基礎知識と非経口的栄養摂取の援助	講義		安徳

続き

	回	授 業 内 容	授 業 方 法	学 習 課 題	担 当
I-2	30	食事介助と摂食・嚥下訓練及び口腔ケア	講義・演習		安徳
	31	* 食事介助・口腔ケアの実際	演習		安徳
I-3	32	医療事故とは・医療事故の発生のメカニズム	講義		渡辺
	33	安全確保の技術・感染防止の技術	講義		渡辺
	34	スタンダードプリコーション	講義・演習		渡辺
	35	清潔の援助の基礎知識と援助	講義		渡辺
	36	手浴・足浴と洗面・整容	講義		渡辺
	37	* 手浴・足浴の実際	演習		渡辺
	38	* 洗髪	演習		渡辺
	39	洗髪の実際	講義		渡辺
	40	洗髪の実際	演習		渡辺
	41	病床での衣生活の援助	演習		渡辺
	42	* 寝衣交換	演習		渡辺
	43	* 全身清拭	講義	レポート⑭	渡辺
	44	全身清拭と寝衣交換の実際	演習		渡辺
	45	全身清拭と寝衣交換の実際	講義		渡辺
評価方法	筆記試験(3回) 技術試験(3回)	出席状況 (講義態度・学内実習を含む) 筆記試験は左記の構成で3回実施する(各100点満点) 3つの筆記試験と各技術試験の全てに合格すると3単位 が取得できる。再試験はそれぞれ1回のみである。			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学[2] 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 基礎看護学[3] 医学書院 看護技術プラクティス 学研 患者さんの情報収集ガイドブック メヂカルフレンド社 医療安全 メディカ出版				
参考図書・参考文献など	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能[1] 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 基礎看護学[1] 医学書院				
備 考	学内実習(演習)にあたっては、十分な学習を行い臨むこと。 技術修得に向けて十分な練習を行うこと 基礎看護学方法論 I が習得できなければ、基礎看護学実習 I-2の実施はできない可能性がある。 レポート課題や技術試験については適宜提示する。				

分野	専門分野 I	科目番号		単位数	2単位
科目名	基礎看護学方法論 II	授業形態	講義・演習	時間数	60時間
		開講時期	1年次・後期	曜日・時限	不定期
担当教員	安徳秀子、渡辺洋子、藤浦和久(看護師)	実務経験	安徳:27年9月、渡辺:32年1月、藤浦:26年		
授業の目的	目的:診断・治療の意義・目的を理解し、診断・治療を受ける対象への援助技術を修得する。				
授業の目標	目標:1. 診断過程における診察と検査の意義を理解できる。 2. 主な治療法・処置の種類・目的・原理原則を理解し、看護の役割と援助の基盤を学ぶ。 3. 急変時の生理的变化に適した看護行為の基盤が理解できる。 4. 医療機器の原理と実際を知り、援助の方法を学ぶ。				
	回	授業内容	授業方法	学習課題	担当
II-1	1	臨床検査とその役割・臨床検査の流れと看護師の役割 診察の介助と生体検査	講義		安徳
	2	検体検査(尿検査・便検査・喀痰検査)	講義・演習		安徳
	3	採血・穿刺	講義		安徳
	4	*静脈血採血の実際(真空採血管とシリンジを用いた採血)	演習		安徳
	5				
	6	創傷管理技術の基礎知識と創傷処置	講義		安徳
	7	褥瘡の基礎知識と援助	講義		安徳
	8	*創傷処置と褥瘡処置の実際(無菌操作技術含む)	演習		安徳
	9	包帯法と止血法の基礎知識と実際	講義・演習		安徳
	10	与薬の基礎知識 点眼・点鼻・経皮	講義		安徳
	11	経口与薬・直腸内与薬	講義		安徳
	12	*経口与薬と直腸内与薬の実際	演習		安徳
	13	注射の基礎知識・注射の実施法	講義		安徳
	14	*筋肉内注射の実際	演習		安徳
	15	静脈内注射の実施法・輸血の管理	講義		安徳
	16	*点滴静脈内注射の実際	演習		安徳
II-2	17	苦痛の緩和・安楽確保の技術(冷罨法・温罨法)	講義		渡辺
	18	*氷罨法と温罨法の実際	演習		渡辺
	19	排泄を整える援助技術(導尿・膀胱留置カテーテル, ストーマ管理)	講義		渡辺
	20	排泄を整える援助技術(導尿・膀胱留置カテーテル, ストーマ管理)	講義・演習		渡辺
	21	*導尿の実際	演習		渡辺
	22	呼吸・循環を整える技術 酸素吸入療法の基礎知識と援助	講義		藤浦
	23	*酸素吸入の実際	演習		藤浦
	24	吸引(一時的吸引と持続的吸引)の基礎知識と援助	講義		藤浦
	25	*排痰ケアと吸入の基礎知識と援助	講義		藤浦
	26	*吸入の実際	演習		藤浦
	27	救命救急処置の基礎知識	講義・演習		藤浦
	28	検査・モニタリング・処置におけるME機器の基礎知識	講義		藤浦
	29	心電計(12誘導)の実際	演習		藤浦
	30	ME機器の取り扱いの実際	演習		藤浦ME
評価方法	基礎看護学方法論 II-1 (1回~16回) 筆記試験は左記の構成で2回実施する(各100点満点) 基礎看護学方法論 II-2 (17回~30回) 技術試験は適宜提示する。筆記試験2と技術試験はそれぞれが100点満点とし、全てを合格すると2単位が取得できる。出席状況(講義態度・学内実習を含む)とレポートを評価に含む。				
テキスト・参考図書・参考文献など	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学2 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学3 基礎看護技術 II 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学4 臨床看護総論 医学書院 看護技術プラクティス 学研 臨床検査 医学書院 医療安全 メディカ出版				
備考	技術評価の受験までには十分な練習を行う。試験後も技術習得のために練習を計画的に行う。				

分野	専門分野 I		科目番号		単位数	1単位
科目名	基礎看護学方法論Ⅲ		授業形態	講義	時間数	30時間
			開講時期	1年次・後期	曜日・時限	不定期
担当教員	田中 雅美	実務経験	田中:25年1月			
授業の目的	目的					
授業の目標	<p>生活をしている対象の健康レベルや疾病の経過及び症状に応じた看護に必要な知識を習得し、看護実践に活かす。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象を個人と家族の視点でとらえ、看護の関わる課題の理解する。 2. 対象の健康状態にみられる経過の特徴を理解し、経過別看護の基本を理解する。 3. 対象の健康障害においてみられる主要症状のメカニズムや成り行きを理解し、症状に応じた看護の基本を理解する。 					
授業の内容と方法	回	授 業 内 容	授業方法	学習課題	担当	
	1	健康上のニーズをもつ対象と家族の看護	講義	随時提示	田中	
	2	健康の維持・増進を旨とする看護	グループワーク			
	3	急性期における看護				
	4	慢性期における看護				
	5	リハビリテーション期における看護				
	6	終末期における看護				
	7	呼吸機能障害のある患者への看護				
	8	循環機能障害のある患者への看護				
	9	栄養・代謝に関連する症状を示す患者への看護				
	10	排泄機能障害のある患者への看護				
	11	活動・休息に関連する症状を示す患者への看護				
	12	認知・知覚に関連する症状を示す患者への看護				
	13	コーピングに関連する症状を示す患者への看護				
	14	安全・生体防御に関連する症状を示す患者への看護				
	15	安楽に関連する症状を示す患者への看護				
	【終了後レポート】					
	主要症状別の看護についてレポートにまとめ、マイノートを作成し、筆記試験終了後提出					
評価方法	筆記試験(100点)を行い、出席状況と学習課題(終了後レポート含む)を評価し(50点)、最終評価を100点換算する。 *ただし、筆記試験が60点未満の場合は再試験が必要となる。					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 臨床看護総論					
参考図書・参考文献など	講義資料は必要時配布 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 学研 他、必要時指示する。					
備考	*回と授業内容は変更されることがあります。					

分野	専門分野 I		科目番号		単位数	1
科目名	基礎看護学方法論IV (ヘルスアセスメント)		授業形態	講義・演習	時間数	30
			開講時期	1年後期	曜日・時限	不定期
担当教員	安徳秀子(看護師)	実務経験	27年9月			
授業の目的	目的 ヘルスアセスメントの基本技術を修得する。					
授業の目標	目標 1. ヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、必要とされる技術を理解できる。 2. バイタルサインの観察、計測、系統別アセスメント、心理面のアセスメントの実際が理解できる。 3. 系統別アセスメントを適切な方法や道具を用いて実施できる。また、得られた結果を援助に結びつけることの必要が理解できる。					
授業の内容と方法	回	授 業 内 容	授業方法	学習課題	担当	
	1	1)ヘルスアセスメントとは	講義		安徳	
	2	2)健康歴とセルフケア能力のアセスメント	講義			
	3	3)全体の概観 フィジカルアセスメントに必要な技術	講義/VTR /演習	課題学習		
	4	4)系統別フィジカルアセスメント (1)ケアにつなげるフィジカル	講義/VTR /演習	課題学習		
	5	(2)呼吸器系のフィジカルアセスメント	講義/VTR /演習	課題学習		
	6	(3)循環器系のフィジカルアセスメント	講義/VTR /演習	課題学習		
	7	(4)乳房・腋窩のフィジカルアセスメント	講義/VTR /演習	課題学習		
	8	(5)腹部のフィジカルアセスメント	講義/VTR /演習	課題学習		
	9	(6)筋・骨格系のフィジカルアセスメント	講義/VTR /演習	課題学習		
	10	(7)神経系のフィジカルアセスメント	講義/VTR /演習	課題学習		
	11	(8)頭頸部と感覚器(眼・耳・鼻・口)のフィジカルアセスメント	講義/VTR /演習	課題学習		
	12	(9)心理・社会状態のアセスメント	講義/VTR /演習	課題学習		
	13	全体の演習	演習			
	14	全体の演習	演習			
	15	まとめ				
【終了後レポート】						
評価方法	筆記試験、技術試験、レポート課題の提出状況、受講態度					
テキスト	フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア					
参考図書・参考文献など	解剖生理学 医学書院 看護技術プラクティス 学研					
備考						

分野	専門分野 I		科目番号		単位数	1単位
科目名	基礎看護学実習 I		授業形態	講義・演習	時間数	45時間
			開講時期	1年次	曜日・時限	9月・12月
担当教員	実習指導:全専任教員 実習指導教員 科目責任:安徳	実務経験	安徳:27年9月、田中:25年1月、渡辺:32年1月 藤浦:26年、前島:31年1月			
授業の目的 授業の目標	<p>目的: I-1 対象の受診場面と病棟の看護場面を見学し、対象を尊重したコミュニケーションを理解する。</p> <p>I-2 対象を理解し、日常生活の基本的な援助技術が実践できる。</p> <p>目標: I-1 1. 対象を尊重したコミュニケーションを考えることができる。</p> <p>2. 外来受診の流れを知る。</p> <p>3. 看護の対象となる人々の生活する病棟・病室の環境を知る。</p> <p>I-2 1. 対象の生活を知る。</p> <p>2. 対象と人間関係が成立する。</p> <p>3. 対象の基本的ニーズが理解できる。</p> <p>4. 対象に応じて、日常生活の援助ができる。</p> <p>5. 対象の人権・価値観を尊重できる。</p> <p>6. 対象を取り巻く職種及び看護の役割を理解できる。</p>					
授業の内容 と方法	授業内容			学習課題・担当		
	<p>基礎看護学実習 I-1(3日間)</p> <p>1. 承諾の得られた外来受診患者と共に行動し、コミュニケーションをとりながら、外来のシステムの理解及び看護師の役割を理解する</p> <p>2. 病棟看護師と行動を共にして看護場面を見学し、病床環境及び患者の入院生活について理解する。</p> <p>基礎看護学実習 I-2(5日間)</p> <p>1. 承諾の得られた対象を受持ち、既習の日常生活援助技術を実践する</p> <p>2. 受持ち患者について、項目に沿って情報を収集し、記録用紙に整理する</p> <p>3. 収集した情報を整理し、患者に必要な日常生活の援助を見出す</p> <p>4. 看護師の援助場面を見学し、指導者と共に患者に適した方法で援助を実践する</p> <p>※ いずれの実習においても、終了後、学習成果の報告会を行う</p>			<p>・実習前に課題があり、期限までに提出する。</p> <p>・実習要項を熟読し、実習ORで実習目的・目標等の理解をすること</p> <p>・実習プロフィールについて、担当教員に指導を受け、積極的に実習に取り組めるように準備すること</p> <p>・実習配置により、教員が実習指導に入る</p>		
評価方法	実習目標到達状況及び実習態度等について、評価表に沿って総合的に評価する					
テキスト	既習の科目のテキスト					
参考図書・参考文献など						
備考	・病院での実習となるため、身だしなみ、マナーには十分に配慮すること(状況によっては、実習を停止することがあります)					

分野	専門分野Ⅱ		科目番号	SX01	単位数	1
科目名	成人看護学概論		授業形態	講義・演習	時間数	30
			開講時期	1年生 後期	曜日・時限	不定期
担当教員	藤浦 和久(看護師)	実務経験	26年			
授業の目的	目的 成人期にある対象を総合的に理解し、成人期の対象が健康を認識し、その人らしい生活を送るための看護について学ぶ。					
授業の目標	目標 1. 成人各期の発達段階と身体的・精神的・社会的特徴を捉え、総合的に理解できる。 2. 成人各期の生活の特徴と、社会的役割や発達課題を理解できる。 3. 成人期に起こる健康問題を理解し、健康を促進するための基礎的知識を習得できる。 4. 疾病予防および健康の維持・増進を促進するための看護の役割について理解することができる。 5. 成人期にある人の終末期医療を理解し、死について考える。 6. 成人各期にある対象と家族のQOLを高めるための看護の役割を理解できる。 7. 保健医療福祉チームの一員として、他職種の人々と協調し看護の役割を果たす基礎的知識を身につける。 8. 自己も成人学習者であることを認識し、自己を振り返ることができる。					
授業の内容と方法	回	授 業 内 容	授業方法	学習課題	担当	
	1	導入 成人看護学概論の授業内容の構成と学習目標 成人と生活、成人期の発達段階、ライフサイクル	講義 課題学習 グループワーク	授業内容に関連する図書・文献の精読と要約	藤浦	
	2	成人期の発達の特徴—主な発達モデル				
	3	成人各期の発達の特徴—グループワーク演習①				
	4	成人各期の発達の特徴—グループワーク演習②				
	5	成人期の健康問題—我が国の経済、人口動態、人口静態				
	6	成人期の健康問題—生活上の健康問題、家族の現状				
	7	成人期の健康問題—職業とストレス				
	8	ストレスについての考え方、生活ストレスとストレスの対処				
	9	生活習慣病と健康施策				
	10	健康レベルと疾病の経過、健康レベルごとの看護目標				
	11	障害を持ちながらの生活とリハビリテーション				
	12	慢性疾患を持つ患者への看護と具体的な看護技術				
	13	侵襲的治療を受ける患者への看護				
	14	がんとの共生を促す看護技術				
	15	近年の医療の動向と新たな治療法、患者・家族の擁護 まとめ				
【終了後レポート】 「成人看護学概論」の学習で、最も関心を深くした内容について述べてください。						
評価方法	筆記試の結果(90%)、レポート・課題学習の提出状況・授業参加態度(10%)も総合して判断する。 *配分は学習状況により変更することもある。					
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院					
参考図書・参考文献など	舟島なをみ著:看護のための人間発達学 医学書院、国民衛生の動向(2015/2016) 厚生労働統計協会、系統看護学講座 専門Ⅱ 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 など					
備考	授業日程・授業方法は、授業進度状況により変更する場合がある。					

分野	専門分野Ⅱ		科目番号		単位数	1
科目名	老年看護学概論		授業形態	講義	時間数	30
			開講時期	1年後期	曜日・時限	不定期
担当教員	前島 文子(看護師)	実務経験	31年1月			
授業の目的	目的 老年期にある対象の特徴と動向を理解し、看護の役割が理解できる。					
授業の目標	目標 1. 老年看護学の必要性と意義を理解できる。 2. 老化に伴う身体的・精神的・社会的変化が理解できる。 3. 老年期にある対象の発達段階が理解できる。 4. 老年看護の目標・役割が理解できる。 5. 老年期にある対象の保健・医療・福祉について理解できる。					
授業の内容と方法	回	授 業 内 容	授業方法	学習課題	担当	
	1	老年看護学を理解する 遺伝子人体Ⅲ	講義・DVD	学習ノート	前島	
	2	老年看護学を理解するための基盤 1 LTD学習法	講義・GW		前島	
	3	老年看護学を理解するための基盤 2	講義・GW		前島	
	4	老年看護の理念と目標	講義・GW		前島	
	5	老年看護の対象となる人々の特徴 1	講義・GW		前島	
	6	老年看護の対象となる人々の特徴 2	講義・GW		前島	
	7	老年看護の対象となる人々の特徴 3	講義・GW		前島	
	8	老年看護に活用できる理論・アプローチ	講義・GW		前島	
	9	老年看護に活用できる理論・アプローチ	講義・GW		前島	
	10	高齢者の健康生活の支援	講義・GW		前島	
	11	高齢者の療養生活の支援 1	講義・GW		前島	
	12	高齢者の療養生活の支援 2	講義・GW		前島	
	13	生かし生かされる地域づくり	講義・GW		前島	
	14	老年看護学の課題	講義・GW		前島	
	15	まとめ	講義・GW		前島	
【終了後レポート】 VTRを試聴後それぞれのテーマに沿ってレポートする。						
評価方法	レポート、試験、受講態度					
テキスト	老年看護学概論(南江堂)、国民衛生の動向					
参考図書・参考文献など	関連する図書として、解剖生理学					
備考						